

第30回 全国街路事業コンクール応募資料

ふりがな 応募者名		いわてけん おうしゅうし 岩手県 奥州市
街路事業	ふりがな 事業の名称	としけいかくどうろ きゅうでんまえたなかせん 都市計画道路 久田前田中線
	ふりがな 事業主体	おうしゅうし 奥州市
	ふりがな 実施都市名	おうしゅうし 奥州市
事業概要 (400字以内)		本路線は、都市計画道路斎ノ神玉貫線(県道衣川水沢線)を起点とし、都市計画道路金ヶ崎水沢線(国道4号東バイパス)を終点とする延長2.82kmの都市計画道路である。 今回整備した終点(国道4号)東側の一部区間(L=462m)は、昭和63年から平成3年に整備を行った。 当該区間(県道佐倉河真城線から国道4号)は、昭和61年に事業採択されたが、JR東北本線との立体交差による居住環境への影響が懸念されたことなどから、限度額立体交差事業として事業計画を見直した経過があった。しかし、財政事情等により平成16年度に当初計画の単独立体交差として事業継続することとし、平成23年度に工事着手して、平成28年度に橋梁部を含む道路区間が完了したことから平成29年4月15日に供用開始を行った。
事業規模		○事業延長:L=665m(内橋梁区間L=395m) ○事業費:45億4千万円 ○幅員:W=14.0～20.0m ○事業期間:昭和61年度～平成29年度
事業の目的		本路線は、JR東北本線により分断されている東西市街地を連絡する路線であり、広域幹線道路である国道4号から中心市街地を結ぶアクセス道路として機能を有している。整備により機能的な幹線道路ネットワークが形成され、東西交通の円滑化を図り、市街地の渋滞を解消し、良好な市街地形成に寄与することを目的にしている。
事業効果 (効果一覧を参考に具体的な効果を記入)		・生活利便性の向上 (高次医療施設へのアクセス距離 国道4号～水沢病院 1.7km→1.1km) ・流通・交通の活性化 (アクセス距離 国道4号～県道佐倉河真城線 1.2km→0.6km アクセス時間 車両 5分→2分、歩行者15分→8分)
地元対応等	・地域住民との協働等 ・事業反対等があったか ・合意形成等を図ったか ・地域に配慮した点	・当初は立体交差によって生じる道路周辺の日照障害の影響及び盛土により地域が分断されることが懸念され、地域住民の同意が得られなかったことから、盛土部分を橋梁区間に変更して、地域住民の理解を頂き事業を行った。 ・住宅地内への道路新設で沿線住民からの要望もあり、周辺地域に配慮するため、道路及び橋梁部に目隠し柵を設置した。 ・橋梁名は市民公募により『さくら大橋』と命名した。

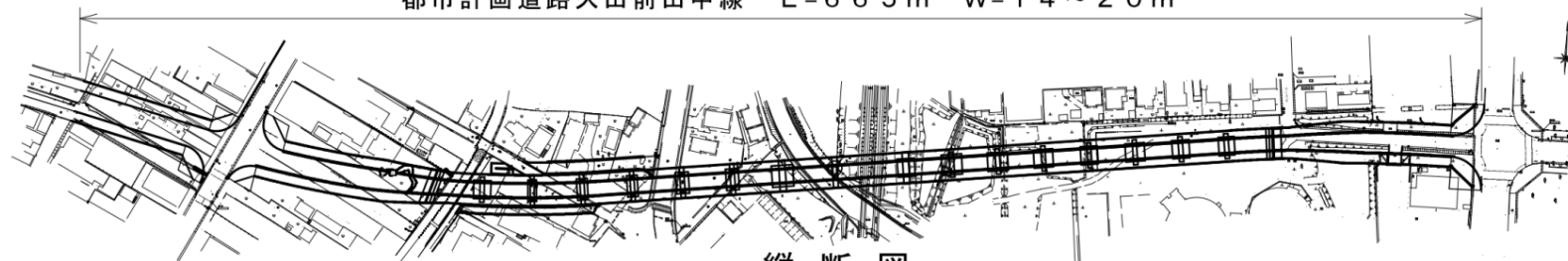
事業位置図



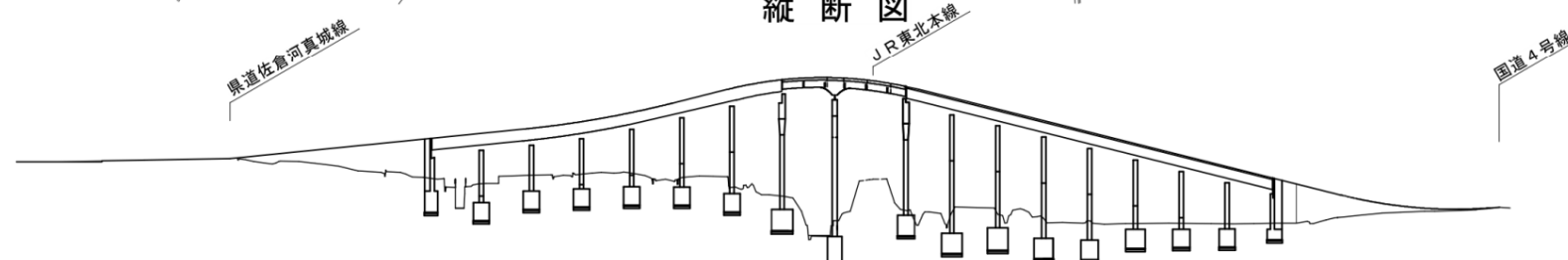
全体図(平面図・横断図・縦断図)

平面図

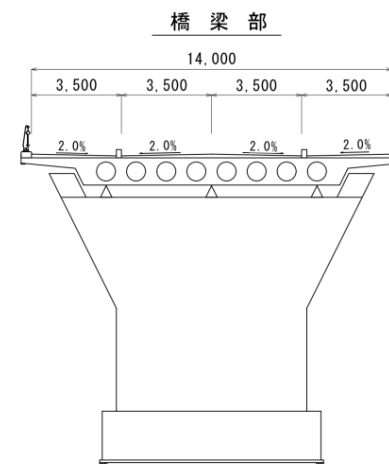
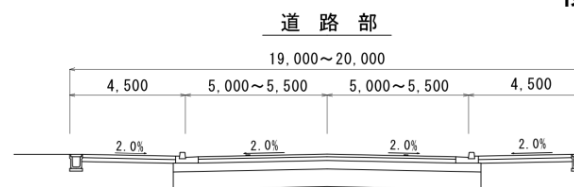
都市計画道路久田前田中線 L=665m W=14~20m



縦断図



横断図



事業前写真

平成27年12月撮影



平成21年6月撮影



平成21年6月撮影



事業後写真

平成29年11月撮影



全景 平成29年4月撮影



都市計画道路久田前田中線の事業効果アピール資料

○交通量調査結果（12時間）

供用前 0台（現道無し）

供用後 車両3,703台 二輪車33台 歩行者及び自転車通行者97人（H29.7）



「事業効果」

本路線の整備により周辺のJR東北本線を通過する国道及び市道（こ線橋、アンダーパス、踏切）の混雑が緩和された。

JR東北本線で分断されていた東西の市街地が結ばれ、新たな幹線道路ネットワークが形成されたことにより、交流人口の増加や産業の振興に寄与することと考えている。

「その他」

橋梁名は市民公募により『さくら大橋』と命名し、名称を記した橋名板は、奥州大使である京都・清水寺の森清範貫主様に揮毫して頂き、地場産品の鍔物にて製作した。今後、市のランドマークとして市民から長く愛されることを期待している。

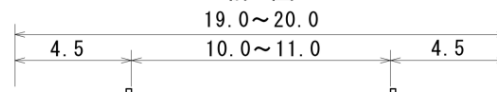
橋名板



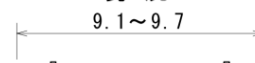
路線全体の進捗状況

都市計画道路久田前田中線

(標準断面)
計画



現況



(案内図)



凡 例

- 今回応募区間
- 施工済区間(完成区間)
- 未施工区間
- 既設道路

都市計画図

